

令和3年度 小林市地域部活動事業報告書



～ 目 次 ～

1. 令和3年度事業目的
2. 令和3年度事業実施内容
3. 令和3年度の事業経過
4. 関係団体との推進体制
5. 拠点校や関係団体の協働体制
6. 実践研究における活動実績等
7. アンケート調査
8. 令和3年度事業における課題及び対応策(案)
9. 総括
10. 地域移行のスケジュール(案)

1. 令和3年度事業目的

本市が推進する小林市健幸のまちづくり基本方針では、「生涯スポーツの推進」と「競技力の向上」に努め、日常的に運動やスポーツを楽しむ市民を増やし、中高齢者の健康増進と次世代を担う青少年の体力の向上を図るとともに、運動・スポーツを介した人と人との交流を促進することを目指している。

そして、本市の中学校部活動の現状は、生徒数は、平成29年度から令和3年度の直近5か年で比較して約80人減少し、部活動数は文化部は変わらないものの、運動部は5つの部活動が減少している。生徒数の減少で、チームとして編制しにくい団体競技の部活動が統廃合され減少傾向にある。

また、学校を取り巻く環境が、複雑化、多様化する現在、学校教育の一層の改善・充実が求められ、教職員が担う業務は質・量ともに増加しており、小林市教育委員会が令和元年度に教職員の働き方改革プランを作成し、地域、保護者、関係機関と連携を深めながら、学校と教育委員会が一体となって教職員の働き方改革に取り組んでいる。

このような現状から、本市教育基本計画の柱である学びの継続性を確立する生涯学習社会の取組の一つとして、小林市立中学校における部活動がより一層有意義で持続可能な取組と、生涯スポーツの推進や競技力の向上、小林市教職員の働き方改革プランにおける「教職員の勤務時間の管理及び適正化」の両立を図るため、休日の運動部活動を地域へ移行する仕組みの構築を目的として、本事業に着手した。

2. 令和3年度事業実施内容

上記、目的達成のため、本年度においては、生徒や保護者、地域競技団体、学校の3者へ事業の説明を行い、実施可能な競技5部活動と地域競技団体をマッチングする体制の構築を重点的に行うこととした。

前例のない、新しい仕組みを構築することから、令和2年度まで実施してきた「小林市部活動の在り方検討会議」に学識経験者の協力を得て「小林市休日の部活動の段階的な地域移行推進協議会」を設立し、小・中PTA代表、地域競技団体、小・中学校体育連盟等の関係者で仕組み構築の手順や事業内容等を協議してきた。

また、より実務的な内容を協議・検討するため、地域競技団体等による「小林市休日の部活動の段階的な地域移行推進協議会専門部会」を設立し、具体的に計画し、実施した。

スケジュールとしては、事業内容を十分に説明し、理解と協力を得る必要があるため、関係者のマッチングに向けた協議・調整・意向調査等を4月から11月に行い、12月から2月に地域部活動を試行し、協議・調整を重点的に実施した。

地域部活動推進事業

3. 令和3年度の事業経過

月	内容	備考
4月	関係団体事前協議・調整、協議会設立準備	
5月	関係団体事前協議・調整、協議会設立準備	
6月 7日	拠点校における事業説明	
6月28日	第1回休日の部活動の段階的な地域移行推進協議会	
8月18日	生徒、保護者、部活動顧問アンケート	
8月27日	第1回休日の部活動の段階的な地域移行推進協議会専門部会	
9月 2日	第2回休日の部活動の段階的な地域移行推進協議会専門部会	
9月21日	第3回休日の部活動の段階的な地域移行推進協議会専門部会	
9月27日	第2回休日の部活動の段階的な地域移行推進協議会	
10月22日	第4回休日の部活動の段階的な地域移行推進協議会専門部会	
11月12日	地域指導者研修会	
12月	第1回地域部活動試行、練習後アンケート	実施日は競技毎で異なる
1月	第2回地域部活動試行、練習後アンケート	実施日は競技毎で異なる
2月15日	第5回専門部会(書面開催)	
2月25日	第3回休日の部活動の段階的な地域移行推進協議会	

4. 関係団体との推進体制

休日の部活動の段階的な地域移行推進協議会

提案

協議会事務局

1. 協議会会議の案内業務、会議運営業務、協議内容の整理業務（仕組み、基本的な考え方等案の決定）
2. 地域部活動試行案の提案準備業務（対象部、試行案の決定）
3. 協議会出納業務（謝金、事務費の支出および整理）

事務局員
各業務の作業

情報共有

休日の部活動の段階的な地域移行推進協議会専門部会

専門部会事務局

1. 専門部会会議の案内業務、会議運営業務、協議内容の整理業務（仕組み案、基本的な考え方案等の策定）
2. 地域部活動試行に向けた具体的案の策定業務（対象部、スケジュール、会場、練習メニュー等）
3. 専門部会出納業務（謝金、保険、事務費の支出および整理）

情報収集

情報収集

調整

情報収集

地域競技団体

協会・連盟等団体の長、地域部活動指導者

1. 練習日程（期日、時間、会場等）
2. 練習メニュー（内容、タイムスケジュール等）
3. 出納（施設使用料、謝金、保険等）

マッチング
協議・調整
情報共有

学校

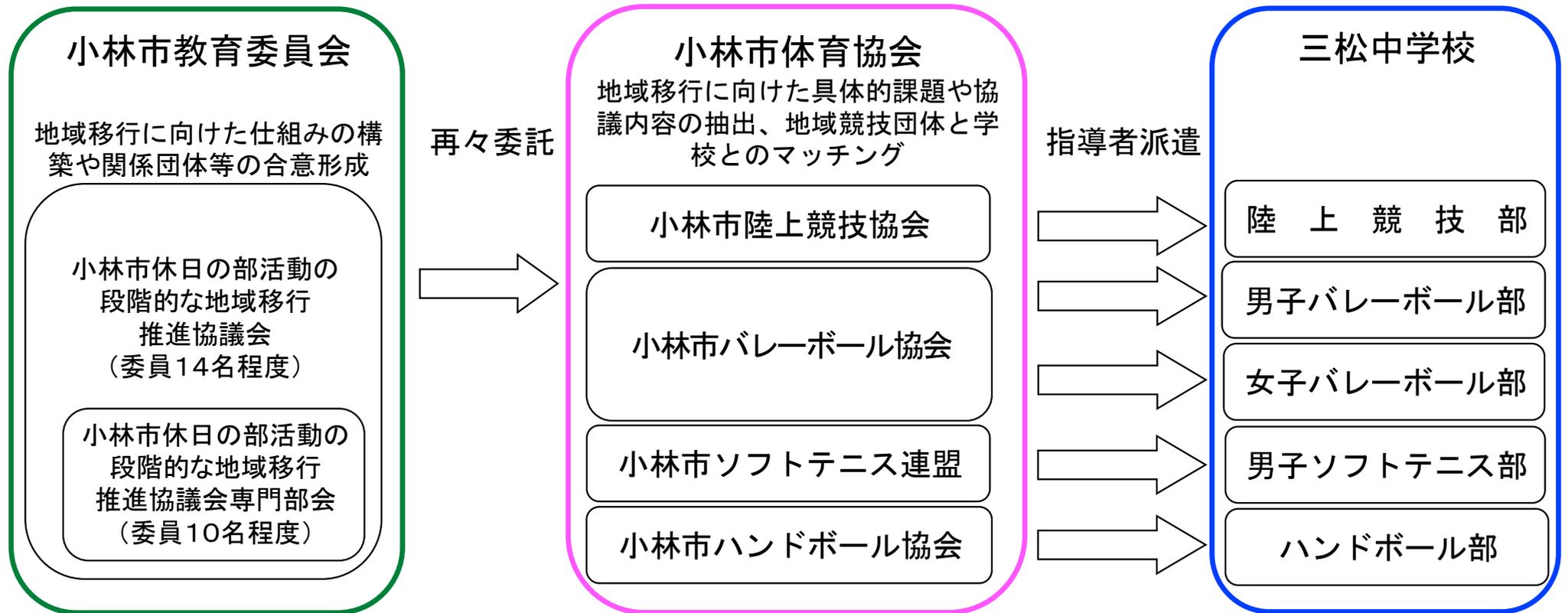
校長、部活動担当教諭、各部活動顧問

1. 練習日程（期日、時間、会場等）
2. 練習メニュー（内容、タイムスケジュール等）
3. 保護者連絡（練習日程、保険等）

本市では、平成30年度から部活動指導員を配置して教職員の働き方改革の取組を実施してきた。部活動指導員を効果的に配置するため、競技経験のない教職員の配置や時間外勤務等を総合的に判断して配置してきたが、学校の状況と個別の地域人材をマッチングし、安定した継続的な運用は困難な傾向にあった。

そこで、地域競技団体から派遣する仕組みにより、指導者が継続して配置できるよう計画した。小林市体育協会は、地域競技団体を取りまとめており、団体の連絡先や状況等を把握していることから、専門部会として地域競技団体との連絡・調整に大きく機能し、円滑な連携体制を構築することができた。

5. 拠点校や関係団体の協働体制



拠点校の選定については、委託事業の実施要綱や1つの学校で5つの部活動において地域部活動試行に取り組むという国の方針及び学校の状況等を踏まえて総合的に判断した。三松中学校の状況としては、部活動に外部指導者が多数配置されており、このことは、地域と学校の協働が進んでいると見受けられ、社会体育との連携体制が整っていることから、他校よりも無理なく拠点校として事業に取り組める学校である。

地域指導者を派遣する団体については、地域競技団体を統括する小林市体育協会に協力を得た。市教委から小林市体育協会へ事業内容を説明し、地域指導者を派遣する地域競技団体へは、小林市体育協会が代表者に事業説明を行い、地域競技団体から指導者を派遣する体制が実現できた。地域指導者の派遣について、小林市体育協会の提案により、持続的な仕組み構築の観点から、各地域競技団体から2名派遣の協力を頂き、1名が都合で練習に参加できない場合でも、もう1名の指導者による同様の指導内容が継続して提供できるような体制で実施いただいた。

練習前には、拠点校の部活動顧問と地域指導者による練習内容等の打合せ会を設定し、その後は直接顧問と指導者間で練習日や内容の調整を行う協働体制を構築することができた。

地域部活動推進事業

6. 実践研究における活動実績等

No.	部活動名	競技団体	検証内容	第1回目		第2回目		第3回目	
				期日	場所	期日	場所	期日	場所
1	陸上競技部	小林市 陸上競技協会	①地域競技団体派遣による地域指導者	12/12 (日)	小林市 総合運動公園 陸上競技場	1/15 (土)	小林市 総合運動公園 陸上競技場	2/5 (土)	小林市 総合運動公園 陸上競技場 (新型コロナウイルス感染症対策により中止)
2	女子バレーボール部	小林市 バレーボール協会	①部活動指導員から地域指導者 ②合同部活動 (三松中と細野中)	12/19 (日)	三松中学校 体育館	1/29 (土)	三松中学校 体育館 (新型コロナウイルス感染症対策により中止)	2/13 (日)	三松中学校 体育館 (新型コロナウイルス感染症対策により中止)
3	男子バレーボール部	小林市 バレーボール協会	①地域競技団体派遣による地域指導者	12/18 (土)	三松中学校 体育館	1/9 (日)	三松中学校 体育館	2/13 (日)	三松中学校 体育館 (新型コロナウイルス感染症対策により中止)
4	男子ソフトテニス部	小林市 ソフトテニス連盟	①地域競技団体派遣による地域指導者	12/18 (土)	小林市 総合運動公園 テニスコート	1/15 (土)	小林市 総合運動公園 テニスコート	2/6 (日)	三松地区 体育館 (新型コロナウイルス感染症対策により中止)
5	ハンドボール部	小林市 ハンドボール協会	①地域競技団体派遣による地域指導者 ②教職員の兼職兼業による地域指導者	12/12 (日)	三松地区 体育館	1/15 (土)	市民体育館	2/5 (土)	市民体育館 (新型コロナウイルス感染症対策により中止)

6. 実践研究における活動実績等（続）

部活動名：陸上競技部	練習場所：小林市総合運動公園陸上競技場
練習日：12/12(日)、1/15(土)	検証内容：①地域競技団体派遣による地域指導者
<p>練習方針 次年度に向けた冬季トレーニング(走りこみ)</p> <p>練習内容</p> <p>12/12(日)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーミングアップ ・体操、ストレッチ ・ハードル補強 ・流し、ウェイブランニング ・短距離、坂ダッシュ ・補強(短・投てき) ・クールダウン <p>1/9(日)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーミングアップ ・体操、ストレッチ ・ハードル補強 ・流し、ウェイブランニング ・短距離、坂ダッシュ ・ストレッチ ・クールダウン 	<p>実践を振り返って(○成果 ●課題)</p> <p>○事前の打合せ会議により、計画的に進められた。なお、協会の事業に普段から参加してもらっているため、先生や生徒ともスムーズな意思疎通が図れた。</p> <p>○地域指導者と顧問による打合せにおいて、生徒の顔写真や特性等を確認できたことから、初回地域部活動試行からスムーズに受け入れた。</p> <p>○顧問に2、3日前からの練習メニューを聞き疲労がたまらないように行うことと次大会の予定や目標を参考にメニューを立てた。</p> <p>○顧問と対面で打合せにより、連絡先交換ができたことから、SNSによる情報共有を図ることができた。</p> <p>○競技特性から小・中・高連携や合同練習とスタイルが計画しやすいと思われる。</p> <p>●指導者の研修ということで、今後のために、視察研修があってもよかったと思う。</p> <p>●生徒に怪我等があった場合の処置や対応等のマニュアルを作成する必要がある。</p> <p>●今後、市内全校を対象とした場合に、人材の確保が課題と感じる。指導をするスキルを持ち合わせて公認指導者が望ましい。</p>

6. 実践研究における活動実績等（続）

部活動名：女子バレーボール部	練習場所：三松中学校体育館
練習日：12/19(日)	検証内容：①部活動指導員から地域指導者 ②合同部活動(三松中と細野中)
<p>練習方針 思いやりをもってチームとして機能する部を目指す顧問の方針に専門性を加え、平日の活動に生かせる練習を行う。</p> <p>練習内容 12/12(日)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップ(身体と頭) ・専門的な基本練習 ・専門的な応用練習 ・クールダウン ・スポーツの道徳的な指導 ・楽しめる指導 ・生徒ひとりひとりが活躍できる内容 	<p>実践を振り返って(○成果 ●課題)</p> <p>○部活動指導員から地域指導者として指導に携わることで、顧問の指導方針を基本に打合せ、準備をスムーズにできた。また、指導の継続性が保たれ、充実した練習ができた。市バレー協会とも連携が図られ、円滑な指導体制が構築できた。</p> <p>○合同部活動の実績としては、地域部活動試行以前から、両校において、合同による練習等の取組がされており、地域部活動の試行はスムーズであった。</p> <p>○中学校の顧問は、両校共に競技経験がなく、専門の地域指導者による指導は、顧問の負担軽減となっている。</p> <p>○生徒においても、これまでの合同チームによる練習から戸惑いなく基本から応用までしっかり練習ができている様子だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校部活動と地域部活動の日程調整が困難である。 ●練習当日の内容を達成するためには、もう少し多目の練習時間が必要である。 ●練習日を含めた保険の柔軟性があるとよい。 ●地域部活動が顧問の負担軽減につながるためには、月3回あるとよい。

6. 実践研究における活動実績等（続）

<p>部活動名：男子バレーボール部</p>	<p>練習場所：三松中学校体育館</p>
<p>練習日：12/12(日)、1/9(日)</p>	<p>検証内容：①地域競技団体派遣による地域指導者</p>
<p>練習方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体づくりと意識づくりをしながら、当たり前前の事を当たり前前にやっていく ・前回の指導から子供たちがどれだけ意識して練習していたか、その成果が練習試合という形で現れるかをみる <p>練習内容</p> <p>12/12(日)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップ ・基本練習 ・フォーム改善 ・個人練習 & 個別指導 ・試合形式 ・クールダウン ・バレーノート記入 <p>1/9(日)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・4チームによる練習試合 ・途中アドバイス ・バレーノート記入 ・クールダウン 	<p>実践を振り返って(○成果 ●課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○顧問とは初見でなかったため、スムーズに参加することができた。 ○練習時間や子供たちへの指導等計画的に上手くできた。 ○平日の短時間ではできない内容を時間をかけてゆっくりと確認していくことが多かった。 ○指導者の謝金や保険料等は試行のあり方で良いが、意見などを取り入れながら随時見直していく必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ●顧問との連携を更に緊密にして、平日と休日の指導内容が相違なく子供たちへの指導できるためには平日に地域指導者が参加する等の工夫が必要。 ●研修について、資格所持者は既に受けているため軽めでも良い。 ●平日の練習内容・強度・生徒の状態を確認してから練習するには時間がかかるため、事前に顧問に相談しながら計画する必要がある。 ●指導者の謝金や保険等がないと、指導者の負担になるため、指導者育成のためにも整備が必要。

6. 実践研究における活動実績等（続）

部活動名：男子ソフトテニス部	練習場所：小林市総合運動公園テニスコート
練習日：12/18(土)、1/15(土)	検証内容：①地域競技団体派遣による地域指導者
<p>練習方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に練習に取り組む姿勢を重視し、全体的に士気が下がらないよう、スピード感を持って練習する。 ・個人の技量に合わせ、競技特性を理解しやすいよう細かく技術指導を心がける。 ・学校部活動にも取り入れることができるような練習を実施する。 <p>練習内容</p> <p>12/18(土)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップ ・基本練習 ・ゲーム展開練習 ・ゲーム ・クールダウン <p>1/15(土)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップ ・基本練習 ・ゲーム展開練習 ・ゲーム ・クールダウン 	<p>実践を振り返って(○成果 ●課題)</p> <p>○事前に全体会議や、顧問との顔合わせ、具体的なスケジュール等を共有できたことで、その後の顧問との打合せも容易にできた。なお、指導者向けの研修も参加できてよかった。</p> <p>○顧問との打合せで、普段の練習内容を共有しつつ、学校部活動で実施していない練習内容にすることで、楽しく、活気ある表情で活動していた。</p> <p>○指導者謝金の金額については、妥当な金額であり、保険についても、参加者全員が保険適応しており、妥当と考える。</p> <p>●練習までの会議や研修等では事務局、指導者、顧問との連携は図れていたが、保護者との連携がなされていない時もあった。特に活動場所が学校でない場合、送迎に係る保護者との連絡体制を整備する等、保護者に事業の趣旨を十分に説明する必要があると感じた。</p> <p>●半日でできる効率のいい練習内容を計画する必要がある。</p> <p>●今回は、休日に地域部活動試行を行ったが、今後は平日も考えられる。平日に対応できる指導者の確保が課題と考える。特に、地方では指導者の高齢化や競技人口の減少等、都市部との環境が違うことから、地域部活動の完全移行にはクリアすべき大きな課題があると思われる。</p>

6. 実践研究における活動実績等（続）

部活動名：ハンドボール部	練習場所：三松中学校体育館				
練習日：12/12(日)、1/15(土)	検証内容：①地域競技団体派遣による地域指導者②教職員の兼職兼業による地域指導者				
<table border="0"> <tr> <td data-bbox="67 375 1115 1029"> <p>練習方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の徹底、フェイント、シュートの精度を高める。 ・守備のトレーニングの徹底 ・守備→速攻→攻撃の個人の動きとチームの動き <p>練習内容</p> <p>12/18(土)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・体幹トレーニング ・基礎トレーニング ・フェイントトレーニング ・シュート練習 ・1対1、2対2 ・4対4、6対6 </td> <td data-bbox="1115 375 2150 1513"> <p>実践を振り返って(○成果 ●課題)</p> <p>○会議や研修から練習等までの流れはスムーズで事業内容もよく理解できた。</p> <p>○選手たちも地域部活動の練習に対してよく理解して行動していた。</p> <p>○指導者、顧問、協会が揃って打合せにより、スムーズな取組が可能であった。</p> <p>○指導者間においても、新しい内容を確認でき、収穫があった。</p> <p>○繰り返し練習が身につき技術力向上が見られた。</p> <p>○生徒はしっかり指導を聞く姿勢ができており、また、質問する積極性もあり、普段の顧問の指導力が伺えた。</p> <p>●会議や打合せの場所の確保等が困難な場合があるため、オンライン開催を検討する必要がある。</p> <p>●顧問、選手、地域指導者に指導方針等について温度差を生まないためにも、打合せ等を綿密に行い、連携を図る必要がある。</p> <p>●指導内容が、顧問や指導者によって異なると、生徒が戸惑うため共通理解を図る必要がある。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="67 1029 1115 1513"> <p>1/15(土)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・体幹トレーニング ・基礎トレーニング ・守備フットワーク ・シュート練習 ・1対1、2対2 ・ワンマン速攻 ・2対2速攻、4対4速攻 </td> <td></td> </tr> </table>		<p>練習方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の徹底、フェイント、シュートの精度を高める。 ・守備のトレーニングの徹底 ・守備→速攻→攻撃の個人の動きとチームの動き <p>練習内容</p> <p>12/18(土)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・体幹トレーニング ・基礎トレーニング ・フェイントトレーニング ・シュート練習 ・1対1、2対2 ・4対4、6対6 	<p>実践を振り返って(○成果 ●課題)</p> <p>○会議や研修から練習等までの流れはスムーズで事業内容もよく理解できた。</p> <p>○選手たちも地域部活動の練習に対してよく理解して行動していた。</p> <p>○指導者、顧問、協会が揃って打合せにより、スムーズな取組が可能であった。</p> <p>○指導者間においても、新しい内容を確認でき、収穫があった。</p> <p>○繰り返し練習が身につき技術力向上が見られた。</p> <p>○生徒はしっかり指導を聞く姿勢ができており、また、質問する積極性もあり、普段の顧問の指導力が伺えた。</p> <p>●会議や打合せの場所の確保等が困難な場合があるため、オンライン開催を検討する必要がある。</p> <p>●顧問、選手、地域指導者に指導方針等について温度差を生まないためにも、打合せ等を綿密に行い、連携を図る必要がある。</p> <p>●指導内容が、顧問や指導者によって異なると、生徒が戸惑うため共通理解を図る必要がある。</p>	<p>1/15(土)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・体幹トレーニング ・基礎トレーニング ・守備フットワーク ・シュート練習 ・1対1、2対2 ・ワンマン速攻 ・2対2速攻、4対4速攻 	
<p>練習方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の徹底、フェイント、シュートの精度を高める。 ・守備のトレーニングの徹底 ・守備→速攻→攻撃の個人の動きとチームの動き <p>練習内容</p> <p>12/18(土)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・体幹トレーニング ・基礎トレーニング ・フェイントトレーニング ・シュート練習 ・1対1、2対2 ・4対4、6対6 	<p>実践を振り返って(○成果 ●課題)</p> <p>○会議や研修から練習等までの流れはスムーズで事業内容もよく理解できた。</p> <p>○選手たちも地域部活動の練習に対してよく理解して行動していた。</p> <p>○指導者、顧問、協会が揃って打合せにより、スムーズな取組が可能であった。</p> <p>○指導者間においても、新しい内容を確認でき、収穫があった。</p> <p>○繰り返し練習が身につき技術力向上が見られた。</p> <p>○生徒はしっかり指導を聞く姿勢ができており、また、質問する積極性もあり、普段の顧問の指導力が伺えた。</p> <p>●会議や打合せの場所の確保等が困難な場合があるため、オンライン開催を検討する必要がある。</p> <p>●顧問、選手、地域指導者に指導方針等について温度差を生まないためにも、打合せ等を綿密に行い、連携を図る必要がある。</p> <p>●指導内容が、顧問や指導者によって異なると、生徒が戸惑うため共通理解を図る必要がある。</p>				
<p>1/15(土)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・体幹トレーニング ・基礎トレーニング ・守備フットワーク ・シュート練習 ・1対1、2対2 ・ワンマン速攻 ・2対2速攻、4対4速攻 					

6. 実践研究における活動実績等 (続)

広報実績 (市広報、新聞)

令和3年6月29日 (火) (宮崎日日新聞)

日 日 新聞 2021年(令和3年)6月29日 火曜日 社 会 20

教員の働き方改革へ

休日の部活指導 地元団体に委託

生徒が減少する中で、部活動の維持や教員の働き方改革につなげようと小林市教委は28日、中学校の休日の部活動指導を地元競技団体などに委託する「地域移行」を目指す推進協議会を立ち上げた。県内初の取り組みで、本年度からモデル校で実証。段階的に実施校を増やし、2024年度には市内全校に広げたい考え。

中学校の部活動は休日の指導が教員の長時間勤務の要因の一つと指摘されている。また生徒や教員の減少で部活動の選択肢が減るほか、競技経験のない教員が指導せざるを得ない状況も課題となっている。このため文部科学省は23年度から地域移行などの改革を全国

小林市教委

競技力向上も狙う

展開する計画を発表。県も実務者会議で検討を進めている。

同市の実証事業は県全体のモデルとして位置付けて計画。本年度は三松中をモデル校に指定した。生徒や保護者らへ意向調査を行い、10の運動部の中から対象となる5部を9月までに決定。12月から来年2月まで毎月1回実証的に実施する。今後、年度内に2回開く協議会で課題を整理し、段階的に拡大していく。地域移行に加えて、複数の学校による合同部活動も検討する。

初回となった同日の協議会には同市八幡原市民総合センターで開かれ、保護者や学校、市体育協会関係者ら15人が出席。「平日の教員と休日の指導による方針のずれが心配」「合同部活動でも大会に参加できるように規定の変更も必要」などの意見が出された。

市教委の中屋敷中学校教育長は「働き方改革だけでなく、競技力向上や競技団体の活性化にもつなげたい」と話した。

(海老原 孝)

★「フレミヤ」にも掲載

令和3年8月27日 (金) (宮崎日日新聞)

令和3年8月27日 (金) 宮崎日日新聞

第3種郵便物認可

次世代育成

本県発展の立役者となる子どもたちの教育は最重要項目の一つ。人口減少により地域が先細っていく中で、地域格差のない教育環境の整備が求められる。地域と連携することで部活動を維持したり、インターネットを活用することで授業を充実させたりする新たな取り組みが注目される。

地域部活動推進事業



部活動の地域移行を検討するためのモデル校に選ばれた小林市の三松中。今後対象となる部活動の選定や生徒、保護者らの意見収集などが進められる。(海老原 孝撮影)

地元指導者らで運営

少子化や校外活動の多様化などを背景に、中学校の部活動が縮小傾向にある。部顧問として指導する教員の長時間勤務も問題となるなど、部活動を巡る問題は複雑化している。生徒たちの活動機会や選択肢を守るため、県はモデル校を選定して運営主体を地域に移行する取り組みを進める。

国は昨年9月、休日の部活動を段階的に学校活動から切り離し、運営主体を地域に移行する取り組みを進める方針を打ち出した。本県でもモデル校の小林市・三松中を軸に、新たな仕組みが実現可能な年末にも実証的な取り組みを進める計画だ。事業費は351万円を計上した。

今後、対象となる部活動を選定し、運営主体の市体育協会を中心に指導人材を確保するほか、生徒や保護者らの意識調査も行いながら進めることとしている。

部顧問として指導する教員の長時間勤務も問題となっている。昨年度の県教委の調査では、中学教員の時間外業務のうち、部活動が授業準備に次いで多いことが判明。運動部顧問のうち約6割が競技未経験者であることも分かった。生徒たちにとっては地域指導者の専門的な指導を受けることで、競技力や意欲向上も図られるとの期待も高い。

県教委は「地域の力を借りながら、生徒にとって望ましい部活動と、教員の働き方改革の両立を目指したい」としている。

(松崎 千穂)

6. 実践研究における活動実績等 (続)

広報実績 (市広報、新聞)

令和3年12月14日 (火) (宮崎日日新聞)

三 日 新 聞 2021年(令和3年)12月14日 火曜日

鳥フル県、養鶏インフルエンザが国内で相次いで発生していることを受け、県は13日、養鶏業者が軽トラックで訪

休日の部活指導 地域委託 小林・三松中 実証始まる

小林市教委は中学校の休日の部活動指導を地元の競技団体などに委託する「地域移行」の実証試験を、同市の三松中(肝付正籍校長、208人)で始めた。生徒数が減少する中で部活動維持や教員の働き方改革につなげる取り組みで、来年2月まで毎月1回実施し、市全体での導入へ向けて課題を整理する。

2023年度から段階的

鳥フル県、養鶏インフルエンザが国内で相次いで発生していることを受け、県は13日、養鶏業者が軽トラックで訪

小林市教委は中学校の休日の部活動指導を地元

に地域移行を進める方針を示している国の委託事業で、県教委のモデルにも位置付け。同校の八つの運動部のうち、陸上やハンドボールなど五つで、市内の各競技団体から派遣された指導者が練習を担当する。

陸上競技部の初回となった12日には、市陸上競技協会に所属する3人が小林総合運動公園で13人を指導し、写真。クロスカントリー

1 スを利用した坂道ダッシュなど学校ではできない練習にも取り組んだ。主将の隈本優心さん(14)は「いつもと違う練習が刺激になった」と手応えを感じた様子だった。

顧問と指導者らは、9月から練習方針の話し合いや

配慮が必要な生徒の情報共有などを重ねてきた。同日、長距離の指導を行った古園謙二さん(71)は「学校としっかり打ち合わせができたのでスムーズに取り組めた。導入校が増えた時に、どうやって情報共有を図るかが課題になる」と話した。

市教委は本年度中に課題を検証し、22、23年度は実施校を増やしながら文化系部活動にも拡大予定。24年度には市全体での導入を目指している。(海老原香)

★「フレミヤ」にも掲載

令和4年1月 (小林市広報誌、市ホームページ)

教育委員会

地域部活動 ってなに?

全国的に中学校部活動は、近年の生徒数の減少により、部活動の維持が困難な状況に陥り、経験のない顧問による専門的な指導を受けることができないなど、生徒にとって望ましい部活動の環境には課題があります。また、教職員は部活動指導に伴う長時間勤務によって、生徒と向き合う時間が取りにくいという課題もあります。

そこで、市教育委員会では、地域人材の協力によって部活動を運営する新しい仕組みをつくるため「地域部活動推進事業」に取り組みんでいます。

地域部活動とは、これまでの学校の顧問に代わって、地域の指導者や団体が指導する部活動です。

(例) 土・日曜の休日は学校の部活動が休みとなり、地域のクラブ活動に参加するなどの取り組みによって、生徒たちは、自分の希望する競技に参加しやすくなり、経験のある地域の指導者から

専門的な指導を受けたりすることに期待できます。また、地域の指導者や団体の指導者には、高い競技力を誇った競技人口が増えることになり、地域や団体が活性化され、選手のさらなる向上につながることを考えています。

地域部活動は、本年度から全国的に取り組みされていて、国の委託事業を活用した県内唯一のモデル校として三松中学校で試験導入に実施されています。同校にある10部活動のうち、5つの部活動で地域の指導者による指導が行われています。

市教育委員会では、これからは地域の方々と協働により、生徒にとって望ましい持続可能な部活動や競技力向上、学校の働き方改革の両立を実現することで、子供たちの豊かな学びの場の確保を目指しています。

9月から各部の顧問と地域競技団体の指導者が打ち合わせを重ねてきました。そして12月～2月に合計3回実施し、効果や問題点を検証していきます。

各部の指導の様子

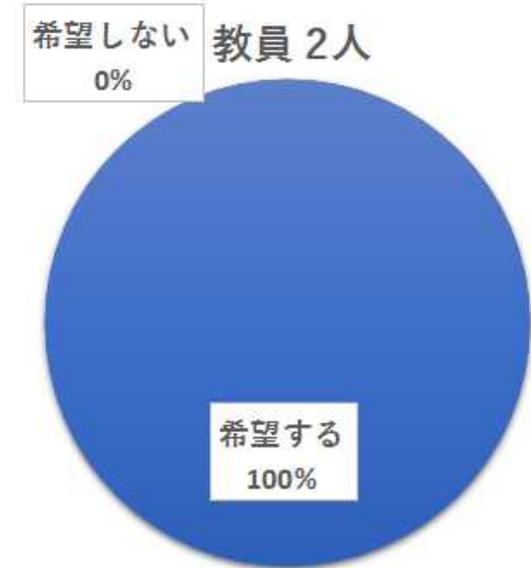
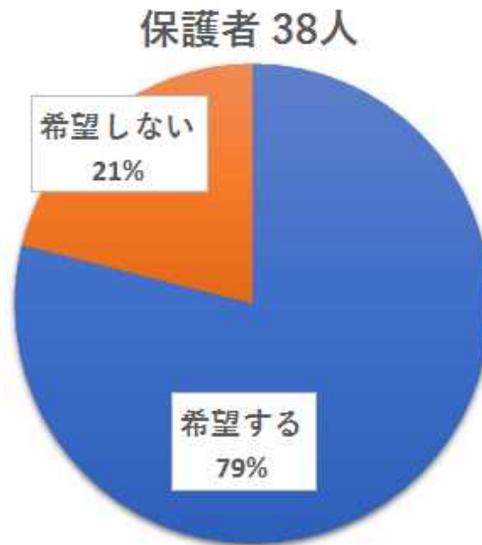
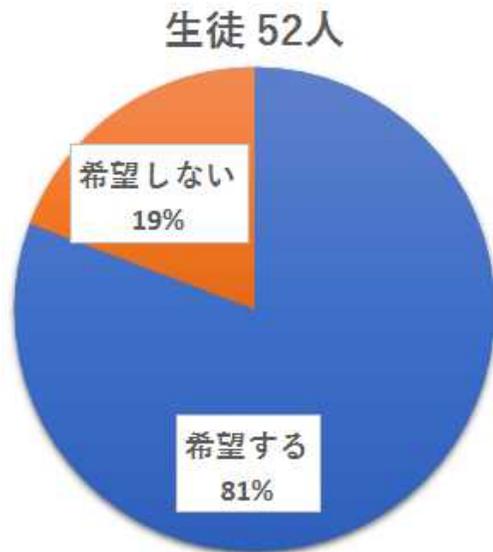
- 1 陸上競技部
- 2 ハンドボール部
- 3 男子バレーボール部
- 4 男子ソフトテニス部
- 5 女子バレーボール部

18

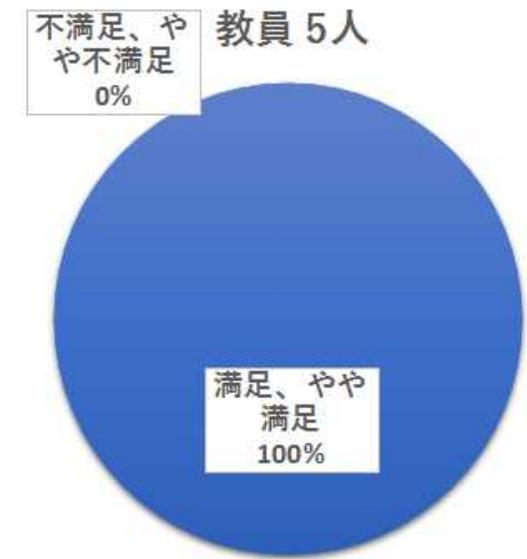
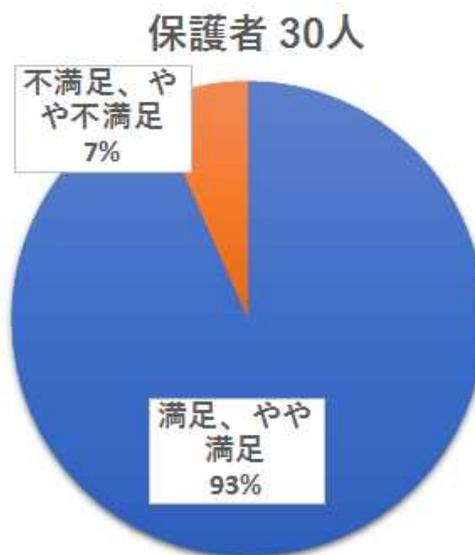
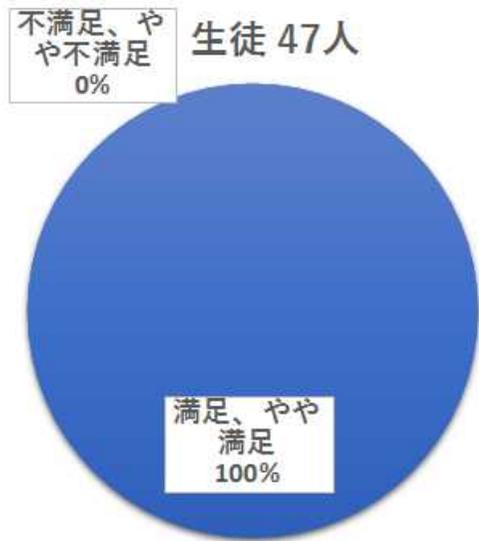
学校教育課 Tel. 23-0424

7. アンケート調査結果 拠点校（三松中学校）

試行前 Q:地域部活動を希望しますか。



試行後 Q:地域部活動の感想をお聞かせください。

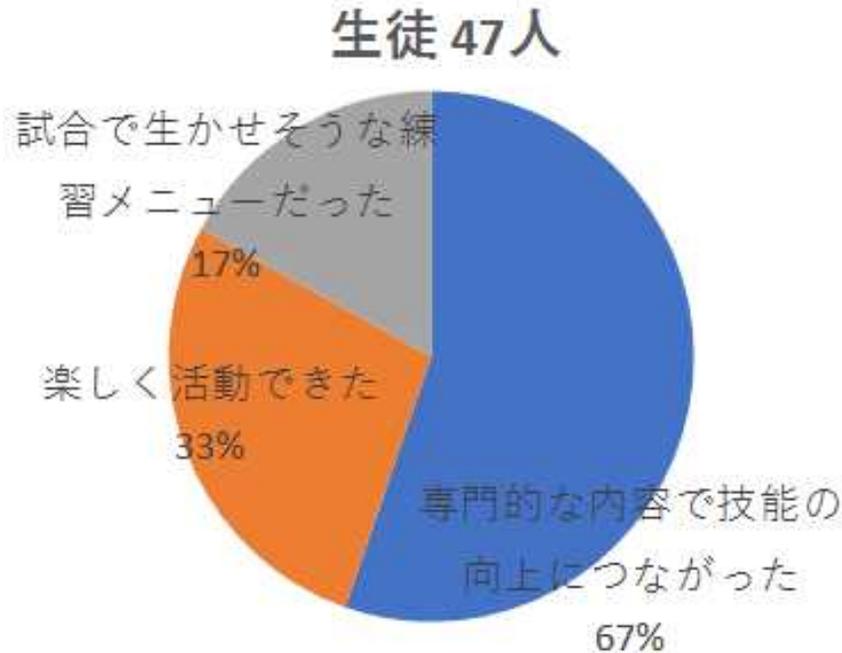


不満足、やや不満足の原因
 ・地域部活動での指導内容はとても満足。地域部活動の時間が少ないのが勿体無い。
 ・練習会場が学校外になった場合、送迎の負担が発生する。

7. アンケート調査結果 拠点校（三松中学校）

満足、やや満足の理由（試行後生徒）

主なその他意見（試行後生徒）

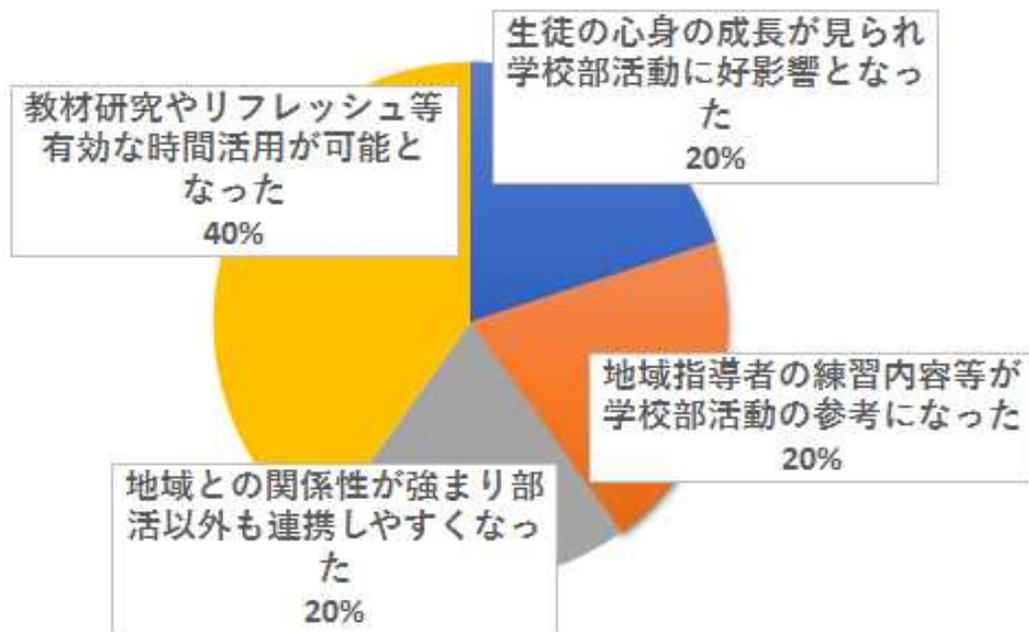


- ・ 専門の知識が分かった。
- ・ 教え方がうまかった。面白かった。
- ・ 優しく教えてくれてとても分かりやすかった。
- ・ 自分の技術の知識を知り、それを活かしたいです。
- ・ 楽しみながら試合につながるような練習メニューだったのでよかったです。
- ・ 知らないことが分かって良かった。
- ・ 日々の練習でもやっていける内容だった。
- ・ 地域部活動で学んだことを試合や練習に生かしていきたい。
- ・ 実際の試合で生かせそうな練習メニューでためになった。
- ・ 専門的なことだったから今後使えそう。
- ・ 普段の練習で教えてもらわない事や、楽しい練習内容だから良かった。
- ・ 学校だけではできない練習ができたので、技能の向上が出来そうだなと思いました。
- ・ 実施する回数をもっと増やしてほしい。
- ・ もっとほしい。
- ・ もっと練習時間、回数を増やしてほしい。
- ・ コーチ陣達とも会話を交わせたし、一人一人を褒めていて下さっていたので良かったと思います。
- ・ 小学校で知り合っていたので楽しくできたし、のびのびと走ることができたと思います。

7. アンケート調査結果 拠点校（三松中学校）

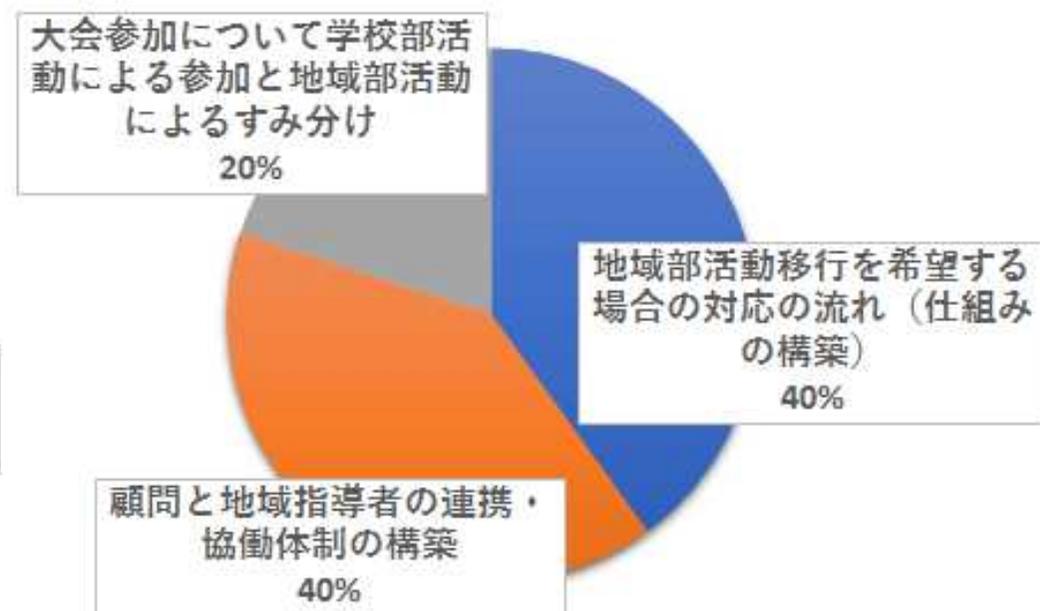
満足、やや満足の理由（試行後教員）

教員 5人



地域部活動を試行して今後の課題と思われるもの（試行後教員）

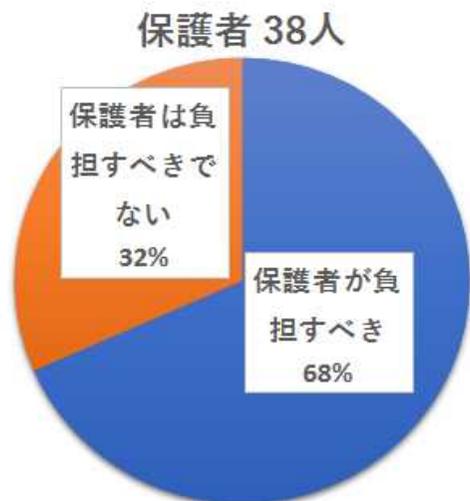
教員 5人



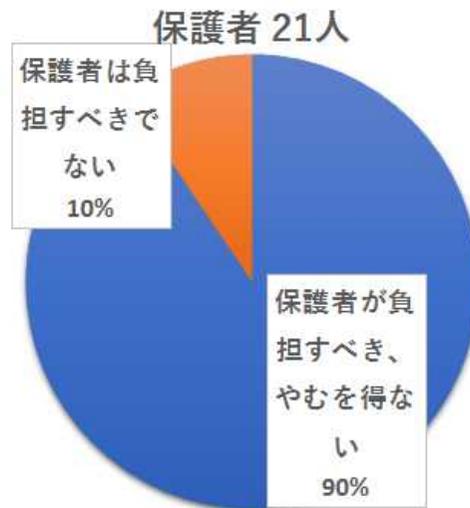
経費負担について（保護者）

主な理由（試行後保護者）

試行前



試行後



負担すべき、やむを得ない	負担すべきでない
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の子供が活動するのだから保護者負担は、当たり前だと思う。 ・部費の中で賄える金額なら可。 ・家庭の事情もあるため何らかの補助があったら助かるが、子供が楽しんでやりたい事を取組むのであれば保護者が負担すべき。 ・費用が発生するのは仕方がないと思うので、負担するのは保護者だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者については、保護者が負担すべきでないと思う。 ・保護者の負担が増える。 ・部活は学校の責任において行うべき。 ・県や市町村で補助すべき。 ・気軽に参加出来ない家庭もあると思うし、そういう家庭だけ、免除されるのも不平等だから、最初から市の子育て事業から予算を出して貰いたい。

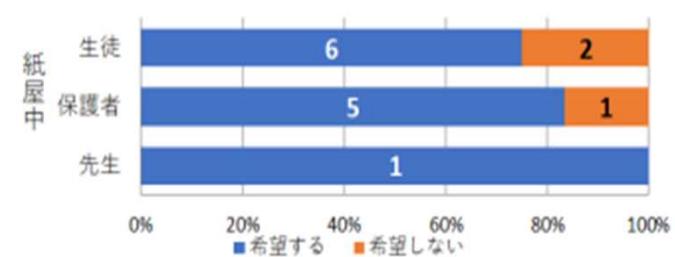
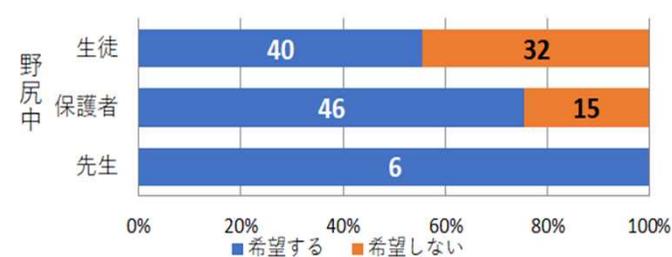
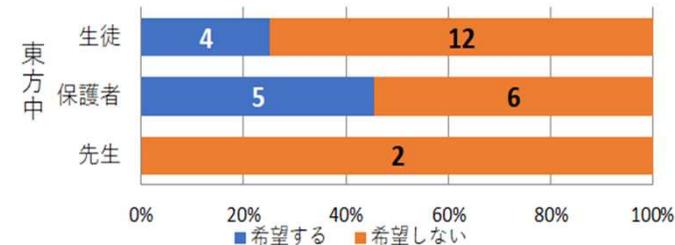
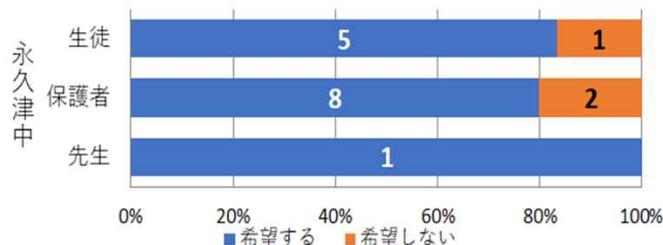
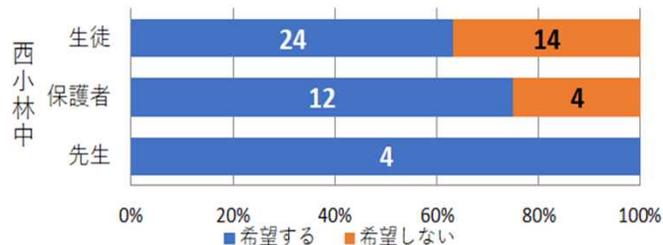
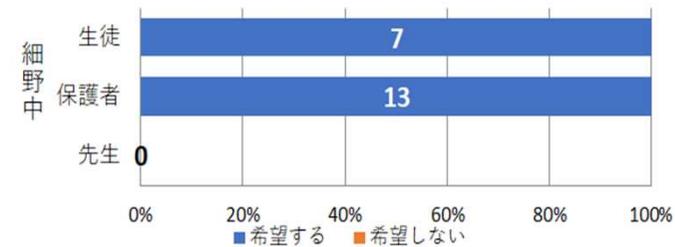
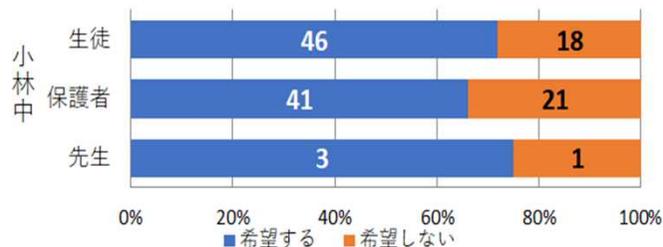
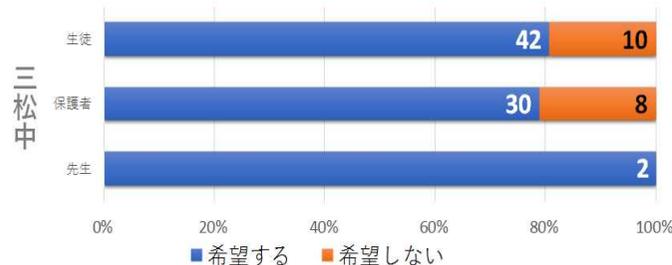
負担すべき、やむを得ない	負担すべきでない
特に無し	・部費で賄えればと考えます。

地域部活動推進事業

7. アンケート調査結果（続）

アンケート調査結果（部活動に所属している1・2年生とその保護者対象 顧問は現在も調査中）

Q. 地域部活動を希望しますか。



7. アンケート調査結果（続）

Q. 「希望する」と回答した主な理由		
生徒	保護者	顧問
<ul style="list-style-type: none"> ・上手くなれるから、強くなれる。 ・いろいろな人のアドバイスを聞きたい。 ・経験者がいない。 ・専門的なことが学べる。 ・地域の方々とのコミュニケーションが取りやすい。 ・もっと西諸のサッカーを向上させるため。 ・意味のない練習をしなくてもいい。みんなが強くなれる。 ・出来れば、指導してくれる人が増えてもっと上手くなれば良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の負担が減るのであれば、良い仕組みだと思う。 ・先生も学校の事も忙しくて、部活に顔出しできない事やプライベート面でも忙しい中出てきてくれるので少しでも楽になると良いと思う。 ・より専門的に教えて頂けると思います。 ・強くなりたい。 ・現在、顧問、副顧問を含め、競技の経験者がおらず基礎から指導できる人がいなく、練習に積極的ではない。また繋がりがなく練習試合もない。 ・違った指導者に指導してもらえると良い刺激になると思う。 ・技術力の向上、コミュニケーション能力の向上が図れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部指導として、技術指導をしてもらえるとありがたい。外部のクラブチームのような形は生徒指導上あまり好ましくないと思う。 ・自身が専門外なので、技術的な指導が難しい。 ・生徒数減に伴い部活動の存続が懸念される。特に西諸県地区は、同一学年でチーム(団体戦含む)を組めない学校が増え、やむなく廃部とする学校も多いため競技選択が狭まっている現状がある。 ・転勤した後も、子どもたちを継続して指導してもらえる。 ・様々な方から指導を受けることができるので生徒にとって良いことと思う。

7. アンケート調査結果（続）

Q. 「希望したくない」と回答した主な理由

生徒	保護者	顧問
<ul style="list-style-type: none"> ・既にコーチがいる。 ・教え方が変わってしまったら困るから。 ・今で十分だから。 ・今の顧問の先生がよい。 ・気を使ってしまう、知らない人は遠慮したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生は、学校生活状況を把握しているので安心。 ・学校の部活動の先生が経験者で指導に対して意欲的であれば先生にお願いしたい。逆に部活の経験が無かったり専門分野外だったら地域の方がいいと思う。 ・今の部活動顧問の先生もコーチも全国トップレベルの経験者で親子共々信頼しているおり、継続して頂きたい。 ・指導者と生徒が合わなかった場合、先生であれば数年で変わるが、地域の指導者だと変えづらい。 ・部活があくまで教育の一環と考えたと技術の指導力のみではなく、教育(育てられる)能力が必要。授業以外の先生との繋がりも、学校や先生と親しめる機会であると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技としての指導だけでなく、生徒指導や生活指導も含めて部活動指導を行っている。 ・自身で指導可能であり、時間的に無理のない指導を行うことができている。 ・部活動は、競技力の向上だけでなく、人間性を磨く場でもあると考えている。もし、地域の方が指導されるのであれば、部活動についての正しい理解がある方が好ましい。

地域部活動推進事業

8. 令和3年度事業における課題及び対応策（案）

	課題	内容	対応策(案)
1	指導者の確保	<ul style="list-style-type: none"> 試行では1回/月であるが、活動回数が増えた場合、指導者の都合等で派遣が困難な場合がある。 地域部活動を複数校で同競技の実施となった場合、地域指導者の相当の人員数が必要である。 	<p>本年度においては、拠点校1校のため、派遣が可能となった。地域活動団体から複数の指導者を派遣して対応する体制を構築するには多くの指導者が必要であり、指導者の養成等により増員する必要がある。また、複数の指導者を派遣する場合、練習時に指導者が常駐できるが、指導内容、練習内容等、指導者間の引継等が重要となる。</p>
2	経費負担のあり方	<p>地域部活動に参加する生徒の保険料や地域指導者の謝金・保険料、会場使用料等の経費は誰が負担するのか。</p>	<p>本年度においては、モデル事業実施のため、国の負担において実施が可能であった。義務教育世代の中学生が対象であり、現在の中学校部活動以上の経費負担が発生すると保護者の負担感が大きいことから、当面の間は国や地方自治体が経費を負担する必要がある。地域部活動のシステムが地域において必要性や有効性の認識が深まり、新しい部活動として定着した後に参加する生徒の保護者負担とすることが望ましい。</p>
3	練習会場への移動	<p>学校外の練習会場で遠距離である場合、生徒のみならず、競技に必要な諸道具を車での送迎する必要がある。</p>	<p>事前の打合せ等の計画により、事前に保護者へ連絡することで送迎計画を立てて実施した。しかし、保護者への負担感が大きいいため、学校施設を活用し、負担軽減を図る必要がある。</p> <p>一方で、学校施設の活用時は、生徒や荷物の移動はクリアできるものの、特に土日の施錠管理について、学校と調整する必要がある。</p>
4	事故や怪我等の対応	<p>地域部活動中の事故や怪我について、対応のノウハウや補償等を整理する必要がある。</p>	<p>今年度派遣の指導者の多くは、有資格者や中学校部活動指導員、外部指導者等事故や怪我等の際の学校との連携について研修等で学んでおり、一定の対応が可能であったが、今後は研修やマニュアル作成等により現場での対応や連絡体制等を確認する必要がある。</p> <p>保険については、回数や対象人員数から、公益財団法人スポーツ安全保険より経済的で補償も充実した保険を活用した。次年度以降も実施回数や対象者等を比較し、有利な保険を採用していく。</p>

9. 総括

○推進組織の構築

令和2年度実施の「小林市部活動の在り方検討会議」に学識経験者の協力を得て協議会を編成した。実務的な内容を協議・検討する専門部会について、本市の現状は総合型スポーツクラブや地域競技団体等の活動団体はいくつかあるが、より、専門的な指導者が多く、今後の地域スポーツの振興にも寄与できる地域競技団体からの指導者派遣を判断した。地域競技団体を統括する小林市体育協会の協力により、各地域競技団体との連絡体制や事業趣旨の理解・協力体制構築が円滑に実施できた。

年間計画等作成及び推進について、生徒にとって望ましい部活動の在り方の観点から、基本的に主体となる生徒や指導者に過度の体力的・精神的負担とならないようなスケジュールで計画した。そのため、本年度のほとんどの期間は協議・調整に充てることで、生徒・保護者、学校の部活動顧問、地域指導者、指導者を派遣する地域競技団体等の関係者の意向を反映しながら慎重に事業を進めた。概ね計画どおりの進捗で実施したが、新型コロナウイルス感染症対応として、3回目の練習機会が確保できなかった。

地域部活動に関する基本的な考え方について、当初は本年度試行を踏まえて整理する計画だったが、試行前の作成の方がより成果や課題を整理しやすいことから、第1回試行前に整備を行い、各指導者へ配付した。

○地域部活動試行に向けた具体的な取組

対象部(競技)選定について、主体となる教職員や生徒、保護者の意識調査を行い、指導者を派遣する地域競技団体の状況等を総合的に判断して決定した。生徒及び保護者等への説明は、新型コロナウイルス感染症対応等も踏まえ、文書による事業説明と協力依頼を行った。

練習においては、持続可能な体制構築の観点から、各団体2名以上の派遣が望ましいという市体育協会の提案により、指導の継続性が図れるよう、地域競技団体の協力体制がとれ、安定した練習が実施できた。特に、地域部活動に関する基本的な考え方の活動運営基準では、指導の継続性の確保、生徒の心身の健康管理、事故防止、体罰、ハラスメントの根絶 について生徒の負担にならないよう配慮することとしており、実施においても、事故や怪我也無く、円滑な運営がなされた。練習の試行回数・時間については、基本的に中学校部活動に準じて実施し、新型コロナウイルス感染症対応として1月後半からの部活動停止期間に伴い中止せざるを得なかった。しかし、全ての部活動で1度は実施し、アンケートにより意見を集約した。試行内容については、概ね、実施に前向きな意見が多かったが、内容が良かった反面、試行回数の増、それに伴う指導者の確保や経費負担の在り方、大会参加のすみ分け、拠点校を増やし地域に普及する取組等が課題として浮き彫りとなり、次年度以降につながるものと思われる。

9. 総括（続）

また、試行内容について、下記の4点について検証した。

①地域競技団体派遣による地域指導者

各地域競技団体は2名の指導者を派遣する指導体制をとった。仮に1名が都合により、練習に参加できない場合の指導や、競技団体内の情報共有にも好影響となった。指導者の多くは、指導歴のある有資格者で、練習もスムーズな実施がされていた。

②部活動指導員から地域指導者

現在の部活動指導員は、地域競技団体の所属ではなかったが、地域競技団体に加入して派遣する体制とした。このことで、地域競技団体においても学校の状況や指導者のスキルを周知することが可能となった。

③合同部活動の実施

地域部活動試行以前から、合同チームで活動しており、部員数の関係上、相手校が練習会場となっていたが、地域部活動では拠点校を練習会場にして、スムーズに実施できた。相手校顧問も参加し、拠点校顧問同様に経験の無い顧問であったことから、指導内容を見学し、自身のスキルアップにつながって大変助かると生徒以外の成果としても効果が見られた。

④教職員の兼職兼業による地域指導者

地域指導者は、外部指導者として携わっており、平素から経験の無い顧問とも連携ができていたため、スムーズに実施できた。協会からの追加配置により指導体制が充実し、新しい指導内容等が顧問にとってスキルアップとなり、平日の部活動に活用できる効果が見られた。

○情報の発信や普及推進

地域への普及及び地域スポーツの振興に向けた取組として、市のホームページや広報誌に掲載したり、地元新聞に掲載したりして周知を図った。また、テレビ取材等を活用した広報活動も計画したが、新型コロナウイルス感染症対応のため、スケジュール調整が合わず断念した。次年度以降は、拠点校以外の中学校や競技団体へも取組を周知し、拠点校を増やして取り組んでいきたい。

○今後の課題

本年度の試行によって、以下の5点については引き続き協議・検討する必要がある。

- ①試行回数（休日開催数の増、平日や長期休業期間での実施等）
- ②指導者の育成・確保（人員の確保、指導スキルの育成、事故・怪我等の対応マニュアル作成等）
- ③謝金や保険料等の経費負担の在り方（負担者の検討）
- ④大会参加のすみわけ（学校部活動で参加するのか地域部活動で参加するのか）
- ⑤拠点校の拡大（地域への普及）

地域部活動推進事業

10. 地域移行のスケジュール（案）

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
<p>計画の策定及び推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○推進組織の構築・拡充 ○基本的な考え方の整理・確定 ○情報の発信～普及推進 	<p>計画の見直し及び推進 「小林モデル」の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な考え方 ・意識調査の仕方 ・対象部選定のポイント ・人材とのマッチングの仕方 ・合同部活動のポイント ・練習会場について ・経費及び負担等について ・運営上の留意点 等々 	<p>「小林モデル」の完成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な考え方 ・意識調査の仕方 ・対象部選定のポイント ・人材とのマッチングの仕方 ・合同部活動のポイント ・練習会場について ・経費及び負担等について ・運営上の留意点 等々 	<p>生徒にとって望ましい部活動(スポーツ・文化)環境を地域が支える「小林モデル」の全校実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域人材活用仕組みの構築 ○合同部活動の実施 ○経費負担の在り方検討
<p>拠点校における実践 運動部1年目 1校</p>	<p>拠点校における実践 運動部2年目 + 文化部1年目 1校 運動部1年目 2校</p>	<p>拠点校における実践 運動部3年目 + 文化部2年目 1校 運動部2年目 + 文化部1年目 2校 運動部1年目 1校</p>	<p>小林市内9校における実践 (いずれかの1部は必ず実践)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・取組概要共有 ・意識調査(職員、保護者、生徒) ・対象部(競技)選定 ・年間計画等作成及び推進 ・生徒及び保護者等への説明 ・対象部と人材とのマッチング ・練習会の試行(各部3回以上) ・合同部活動の検討 	<p>※文化部における取組の開始 ※モデル校の付加</p>	<p>※モデル校の付加</p>	